

堺市立総合医療センター 臨床研修の理念

教え教えられる文化の中で、優れた人格を持ち、
世界の医学・地域の医療に貢献する総合力のある医師を堺をあげてチームで育む。

堺市立総合医療センター基本方針

1. 良き社会人となる(教え教えられる文化を大切にし、優れた人格を持つ)。

初めて社会人として歩み出すにあたり、大切なことは、人の気持ちを理解することである。社会はお互いが助け合って成り立っていることをいつも心に刻もう。職場で出会う様々な人々を尊重しよう。様々な職種、様々な年齢、様々な立場、お互いが助け合っていることを心から感じよう。病院という空間では、医療従事者と患者さんに分かれるけれども、それぞれの方法によって社会に貢献している同じ人間である。患者・家族とともにその考えや価値観に配慮して、ともに医療を進めよう。

2. 良き医療人となる(優れた人格を持つ医療人となる)。

我々が対応する患者は、身体的、精神的に問題を抱える弱者であり、我々医療技術者の職責はそのような人々を助け支えることである。常に弱者に配慮できる人格を養うことが大切である。今日の医療は医師だけで行うものではなく、他職種が様々な視点から協働して成り立つものである。それぞれの人が役割を果たして病院という社会に役立つ組織が営まれていることを忘れてはいけない。

3. 良き医師となる(地域の医療に貢献する総合力のある医師となる)。

患者と医学書から学び、指導者の助言を受けて、真摯に患者のために働こう。良き医師とは、常に最新の医学知識や技術習得に努め、自ら研鑽することを継続しなければならない。しかし、一人で学べることには限界があり、先輩、同僚の医師や他職種からの意見や教えを受け入れる広い心も必要である。

4. 良き研究者となる(世界の医学に貢献する総合力のある医師となる)。

医学で解明されていないことはたくさんある。常にリサーチマインド(探究心)を研ぎすましておこう。目の前の患者さんの治療が大切、そして目の前にいない未来の患者さんのために少しでも医学の発展に寄与できるよう小さなことでも大きなことでも科学的に検討し、学会発表や論文執筆を行い研究を通して医学の発展に寄与することも考えよう。

5. 幅広い教養を身につけ、人生を楽しむ(優れた人格を持つ)。

医学知識や、診療能力(問診、身体診察、各種検査、治療手技、評価、方針決定)はもちろんのこと、保険診療や地域保健、災害や国際医療など、幅広い知識を身につけよう。また、医学と関係があってもなくても自分が心から楽しめる趣味や特技を持ち人生を楽しもう。

医師は常に健康や生命に関わっており、受け入れがたいことや理解されにくいことも患者に説明できなければならない。医学的知識だけでなく幅広い見識を備えて初めて患者の納得、同意を得ることができるよう自己を研鑽しつづけなければならない。